【教育目標】社会の中で、私もみんなも「幸せ」になる

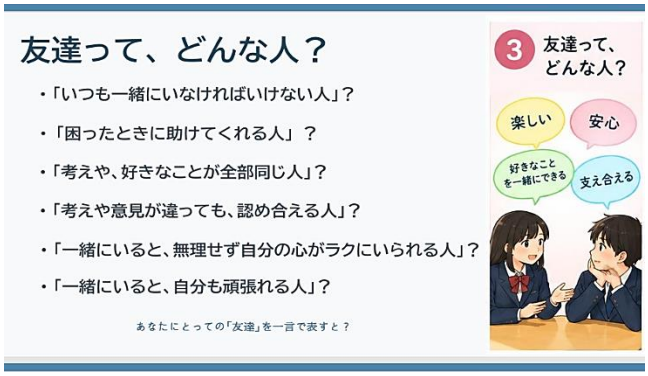
諏訪西中だより

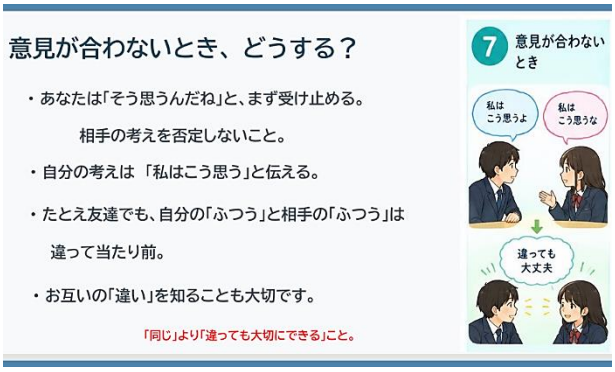
第 6 号
令和８年１０月３０日
諏訪市立諏訪西中学校

後期がスタートしました

今年度の折り返しとなりました。10 月 9 日（金）に前期の終業式と後期の始業式を合わせ、「終始業式」を挙行いたしました。学年代表の 3 名から、前期の振り返りと後期への抱負の発表がありました。部活や日々の学習で力を入れたこと、鳳祭でのクラスの団結を後期にも活かしたい、等の内容でした。

学校長からは、「友達って何？」というタイトルで校長講話を行いました。





中学生期の悩みの多くは、友達、学習、自分の心や身体のことです。今の中学生は、スマホ・SNS の使用によって、友達との繋がりがずっと途切れない中、新たな悩みを抱えている側面もあります。人との関わり方や、自分の気持ちのあり方について、ご家庭でも話題にしていただけると幸いです。

★☆★

「インクルーシブ教育の充実」に向けた取組について

西中・湖南小・豊田小の西山三校では、「インクルーシブ教育の充実」を小中一貫教育の柱としています。インクルーシブと聞くと、「障がいのある人と健常者が一緒に学ぶ」というような捉え方をされる場合がありますが、西山三校で捉えるインクルーシブ教育は、「生徒の多様性を包み込む」ことを大切に考えるものです。

【西山三校で捉える多様性（例）】

それぞれの子どもの「得意」「苦手」「好き」「嫌い」や、「話すより字を書く方がスムーズ」「書くより話した方がスムーズ」「書くより端末入力の方がスムーズ」「じっと座っているより、少し動いていた方が落ち着く」「大人数の環境がしんどい」　等々



「授業は前を向き、先生の話を姿勢良く聴くのがふつう」としてきた、いままでの学校文化のままでは、こぼれてしまう子どもが出てきています。それを、「わがまま」や「サボり」と捉え、管理的な指導を強めると、子どもの「苦しい・辛い、しんどい」が強まり、不適応や不登校などの引き金になることが考えられます。

令和 7 年度から、西山三校では「ポジティブ行動支援（PBS）」の理論を導入し、生徒の良いところに着目し、その良さを教師が積極的に認めることにより、教師と生徒の良好な関係性が構築され、学校での生徒の安心感や自己肯定感が高まり、ネガティブな行動が減ることを目指しています。（PBS の実践は、現在多くの自治体、学校で行われており、成果を出しています）生徒の良いところを積極的に認めるということは 「叱らない・指導しない」とは同義ではなく、必要な指導は従来と変わらず継続するものです。

インクルーシブ教育の充実や PBS を実践する上で根底にあるのが「社会モデル」の考え方です。例え

ば、車イスユーザーが段差で進めない時の解決方法を考えたとき、「その人自身がケガを治したり、障がいを克服したりして、自ら歩けるようになって段差を越えていくこと」と、「段差にスロープを設置し、車イスのまま進めるようにすること」の2つが考えられます。前者が「個人モデル」の考え方、後者が「社会モデル」の考え方となります。社会モデルの考え方は、本人の努力よりも、周りの環境を整えることで困難を解消を目指すものです。



この社会モデルを学校に当てはめると、例えば授業に集中できない生徒がいた場合、その生徒の頑張りや努力を待つ、あるいは努力せよと指導する前に、どうすればその生徒が頑張れるかを考え、授業内容、板書や資料の提示を工夫、学び方や、学ぶ形態、表現方法等に選択肢を増やす工夫など、教師側が環境を整備することを大切にするものです。西中では実際に様々な取組により成果が見えてきています。

令和 10 年度より先行実施（全面実施は R13）される次期「学習指導要領」では、「多様性の包摂※」が柱の 1 つとして示されています。学校教育の中で、多様な他者と交わりながら、お互いの価値観を認め合い、価値観の違う他者を否定したり排除したりすることなく、折り合いをつけていくことを学び、予測不可能なこれからの社会を生きていく力を育成することが求められています。

そのために、「学校はこういうもの。その学校に生徒が合わせるのがふつう」、としてきたこれまでのやり方を見直しながら、多様な生徒を包み込み、その生徒がより力を発揮できる環境整備を教師がしていく、「学校のふつう」をアップデートの取組を少しずつ進めています。保護者の皆様におかれましては、西山三校で取り組むインクルーシブ教育や「子どもの良いところに注目し、できていることを認める」（PBS）へのご理解とご協力（ご家庭でも、お子さんの良いところを認めること）いただけると幸いです。



※包摂→受入れ、共に生きること。排斥の対義語。

ST（スタディタイム）をアップデートします

定期テスト前の自主学習として、ST（スタディタイム）を行ってきましたが、生徒の学びの選択肢を増やし、主体的な学びに結びつける「LST」として 11 月後期中間テスト前から実施します。

LST（Learning & Self design Time）



・任意参加の ST から発展し、全員参加の時間とします。
　・テスト勉強に限定せず、自分の学びたいものを、自分で選んで学ぶ時間とします。
　・学校では、学ぶ「時間」と「場所」を提供。内容は生徒が決めていきます。
　・「やらされる学習」から「自ら選んだ学習」への転換で生徒の主体性を引き出すことがねらいです。

〇今回は試行的な実施として、今後は生徒の様子や声を聞きながら、更に発展させていく予定です。

11月の主な予定

2日（月） 人権月間（～30日） 相談①・LST	16日（月）2年キャリアダイアローグ・読み聞かせ
4日（水） 西山あいさつの日	17日（火）読み聞かせ
5日（木） 相談②・LST	18日（水）読み聞かせ
6日（金） 相談③・LST	20日（金）生徒会立ち合い演説会・投票
9日（月） 相談④・LST 検尿	24日（月）生徒会選挙予備日
10日（火） 相談⑤・LST	25 日（火）読み聞かせ 検尿二次
12日（水） 3年テスト⑥・後期中間テスト （下校14:00）	26 日（水）三者懇談会①
13日（木） 3年テスト⑥・後期中間テスト （午後：3年工業メッセ参加）	27 日（木）三者懇談会② 30 日（月）三者懇談会③ ※三者懇談会中（～12/3） 下校時刻13:55 部活下校16:00

27 日の参観日・PTA 講演会ありがとうございました。講演では講師の山本孝弘さんから心温まる素敵なお話しをいただきました。ご参加の皆様、そして企画・運営していただいた PTA 役員の皆様、ありがとうございました。